



漫画家たちの戦争～戦後70年を迎えて～



1945年8月15日、多くの尊い命が犠牲となった戦争の終結より、今年でちょうど70年を迎えます。そんな節目を迎える今月の司書の部屋は、漫画をとおして戦争を学んでみましょう。今もなお活躍されている漫画家たちのなかには、過酷な戦争の時代を生き抜いてきた方たちもいます。そんな漫画家たちが戦争の虚しさ、悲惨さについて描いた作品をみながら、戦争を考えてみませんか？

『漫画家たちの戦争』 原爆といのち 中野晴行 || 指導・監修 金の星社より

1945年8月、日本はアメリカ軍の原子爆弾の攻撃を二度も受けました。この原子爆弾は一瞬にして多くの人の命をうばい、原爆の放射能による後遺症を起こし、人々をいまなお苦しめています。そんな原子爆弾の恐ろしさを描いた漫画を8つ収録。

「おれは見た」 中沢啓治 著

『はだしのゲン』で有名な中沢啓治さんのこの短編漫画は、『はだしのゲン』を描くきっかけになった作品です。中沢さん自身の体験をもとに描かれており、過酷な戦争時代を生き抜いた作者が描く自伝。戦争が終わってもなお人々を苦しめる原爆の放射能、中沢さんのお母さんもその一人でした。



そんな中沢さん自身の、作中の「さんざんおふくろを苦しめやがってーおれは原爆の漫画をかいてやる 漫画の中で原爆をたたきつぶしてやる」というセリフはとて心をうたれます。

『漫画家たちの戦争』 子どもたちの戦争 中野晴行 || 指導・監修 金の星社より

残酷で悲惨な戦争に苦しめられたのはおとなだけではありません。戦争の時代をけんめいに生き抜いた子どもたちの生活を描いた作品を8つ収録。

「屋根裏の絵本かき」 ちばてつや 著

『あしたのジョー』で有名なちばてつやさんの自伝漫画。ちばさんは、幼少期を満州で過ごします。その地で終戦を迎え、敗戦に伴う暴動や略奪などが相次ぐ社会的混乱の中、生と死が隣り合わせの過酷な幼少の頃のちばさんの一時期を描いた作品。



ちばさんは父の同僚の人にかくまわれ、屋根裏部屋で日々を過ごします。生活はとて貧しく、危険な外へは、遊びに出ることもできませんでした。思い切り遊ぶことができない幼い頃のちばさんは、屋根裏でひたすら絵を描いていたのでした。それがいまの漫画家生活のはじまりとなったのです。

『漫画家たちの戦争』 戦争の傷あと 中野晴行 || 指導・監修 金の星社より

戦争は、単に兵隊同士の戦いではありません。それによって、町や、家族や友達が死んでしまうこともあります。直接戦争には関係のない人の命をも奪う戦争による傷あとを描いた作品を9つ収録。

『漫画家たちの戦争』 戦争の現実と正体 中野晴行 || 指導・監修 金の星社より

戦争がおわって70年たちますが、わたしたちは実際の戦争を知りません。漫画家たちは、そんな子どもたちのために、戦争を忘れてはいけない、二度と戦争をおこしてはいけない、そんな願いや思いをこめ、戦争をテーマに漫画を描いています。実際に戦争をいきぬいた著者が書く漫画は、目をそむけてはいけない戦争の現実と正体です。そんな漫画を8つ収録。

『cocon』から「暗闇とペン先」 今日マチ子 著

『センネン画報』で知られる今日マチ子さんが数年前より描き始めた戦争漫画『cocon』からの作品。この作品は沖縄でアメリカ軍との戦闘に巻き込まれたひめゆり学徒隊の女学生たちの物語。ひめゆり学徒隊は、沖縄陸軍病院の看護部隊でした。



普通なら16歳の女学生、恋もおしゃれもしたい彼女たち…そんな彼女たちは看病のかたわらで、アメリカ軍の攻撃をうけてしまうのです。今日マチ子さんのとてはかなく、切ないタッチで描かれています。

「白い旗」水木しげる 著

『ゲゲゲの鬼太郎』また最近では、ドラマ『ゲゲゲの女房』でも有名な水木しげるさんもまた、戦争を経験した一人です。水木さんは、太平洋戦争のときに、陸軍の兵隊として、戦場へ赴き、そして、戦い、最後には、左腕を失いました。戦争が終わり、漫画家になった水木さんは自身の



実際の戦争経験をもとに、戦争のおろかさ、ばかばかしさを訴えた漫画を描き続けています。

『漫画家たちの戦争』 未来の戦争 中野晴行 || 指導・監修 金の星社より

戦争が終わり、日本は平和な国になりましたが、しかし今もなお小さな戦争や紛争をおこしている国はいくつかあり、それがおおきな戦争となり日本も巻き込まれる可能性はゼロではありません。戦争は完全になくなったわけではないのです。漫画家たちは、そんな私たちの目の前におきるかもしれない戦争をSF漫画として描き、わたしたちに警鐘をならしています。そんな漫画を8つ収録。

